

## 「今時の若い者は…」と言うまえに

大久保 義美

愛知みずほ大学人間科学部人間科学科

皆様方は、「今時の若い者は軽率で困ったものだ」という気持ちをお持ちだと思いますが、実はこれ、考古学者が解読した 4000 年前の古文書に記されていた言葉でございます。いつの時代でも同じことが繰り返され、それが今の私達につながっているのだたくさんありますが、ゆっくり話すと、結構いいところがあります。

これは私が 10 年ほど前に聞いた実話です。北海道のある牧場へ若者がフラッとやって来て、「雇ってほしい」と言いました。彼はアルバイトとして雇われ、次の日から本当によく働きました。何ヶ月か経ったある日、その若者があまりに素晴らしいため、牧場主が「後継ぎにならないか」という話を持ちかけたところ、翌朝、若者はお世話になったことを感謝する手紙を残して消えてしまいました——この話の感想を求めると、10 年くらい前は、同僚のほとんどの先生方は「信じられない。せっかくのチャンスなのに」と言われましたが、ここ 2 年ほどは、「そういうことはあるかもしれない」という感想に変わってきました。学生達も、10 年くらい前は、「彼の気持ちは分かる」と言っておりましたが、ここ 1～2 年は、私が結末を話す前に「次の朝、彼は消えたんでしょ？」と言い当てる学生が多くなりました。

教師として彼の気持ちを推測してみますと、「そこで働くことは大変楽しかったが、そこで一生働き、自分の進路が決まることにも凄まじい恐怖心を持っていた」と考えられます。今の若い人達はアルバイトや就職先の現場では本当に楽しんで働いています。勿論、それはお金を頂けるといふことでもあります。働いたことに対して、「ご苦労様」「有難う」と認められるからです。これは今まで彼らが受けた教育の中で、認められたり、誉められたりすることが少なかったためだと思います。

先程申し上げた「ある場所にとどまる恐怖」を青

年心理学的に分析しますと、彼らは「将来を今決めること」に対していつも恐怖を持っています。しかしこれは、「一生あるところに止まる」ということへの恐怖ではありません。今の学生達はフリーターが恵まれた状況でないことを十分知っていますが、それにも関わらず、1ヶ所に止まることに深い恐怖心を持っているのは、彼らが「ゆっくり助走したい」と考えているからです。別な言葉で申し上げると、「モラトリアム」ですが、私はむしろこれを、「ゆっくり育ち、ゆっくり助走している」と捉えています。平均寿命が長くなり、青年期が長くなったため、若い人達は昔よりゆっくり育ち、ゆっくり助走して、「いつ、どこのポイントでどちらに向けて踏み切ろうか」と考えているのです。

今、22 歳で大学を出ますが、教員の立場で見えますと、せめてあと 1～2 年助走期間があればと思います。私の大学でも就職して半年ぐらいで戻ってくる学生もおりますし、助走期間が長く、ゆっくり歩いているため、途中で野の花や鳥の鳴き声に心を奪われ、「進路変更」したりしますし、あまりに距離が長い途途中で休憩したりするので、大人の目からは、何もしていないようにみえたりするのです。また、助走が長くなったため、踏み切るポイントもみえず、とうとう辿り着けないというケースもあるように考えられます。

このように今の若者は見かけとは違って、実はかなり悩んでいます。助走が長くなったことは、即戦力を求める実社会から見ると、決して歓迎すべきことではないと思いますが、踏み切りまで力を蓄えているわけですから、上手くジャンプさせてあげれば、新しいレコードが出るかもしれません。あるいは長く走る中で十分考えているため、新しい発想を生み出してくれる可能性もあります。これらは、教育の場では「育てる」という発送に転換できますが、実社会では非常に厳しい状態にあるため、なかなか難しいと思います。しかし私としては、是非、社会で彼らを育てて頂きたいと思っております。

これは日本の文化なのか、教師の責任なのか分か

1) 2002 年 2 月 7 日、名古屋瑞穂ロータリークラブ第 1075 例会にて講演。同クラブの許可を得て機関紙 WEEKLY REPORT より再掲。

りませんが、子供が98点を取っても、私達大人は「あと2点足りない」と叱ってしまいますから、子供達はなかなか誉めてもらえません。こうした教育を長年受け、しかも成績もあまり良くない学生達はとも叱られ上手で、叱られ慣れしています。しかし、誉められ慣れしていないため、誉められることには弱く、アルバイトの現場や入った会社で「よくやってくれた」と誉められただけで、本当にパワーの源になります。ですから、良いところを見つけ、誉めてあげることによって、長い間走って来た助走を高いジャンプへと近づけることができます。

誉めるときは全体に誉めるのではなく、よく見て、できるだけ小さなポイントを具体的に誉めてください。更に、「さすがに〇〇君だね」といったかたちで誉めると、今までこちらがその彼を信頼し、よく見ていたことが伝わって効果がありまし、叱るときも、「君としたことが」とつけ加えますと、相当きつく叱られても、“今度こそ”と元気が出ます。このような叱り言葉を入れつつ、相手をよく見て誉める、そして何とか良いジャンプをさせてあげるのが大人の責任ではないかと思えます。

今の若者の心の奥底を少し想いはかってみると、そこには非常に良い方向を向いたプラスの面があり、それを認めることで、私達もお互いに少し歩み寄れるところがあるのではないかと思う次第でございます。